

## ☆OECD 科学政策審査員生研視察☆

OECD (Organization for Economic Cooperation and Development) 科学政策審査員一行が、昭和 40 年 10 月 28 日 (木) 午後 2 時 30 分より、3 部斎藤研 (レーザに関する研究)、4 部菊池研 (電子写真に関する研究)、1 部岡本研 (耐震構造に関する研究)、2 部平尾研 (自動車に関する研究)、5 部丸安研 (写真測量に関する研究) の各研究室を約 1 時間 30 分にわたって視察した。

## ☆海 外 渡 航☆

◇第 4 部 菊池真一教授は 9 月 27 日～10 月 2 日パリで行なわれた国際写真科学会議 Congr  International de la Science Photographique に出席したこの会議は次回 1967 年に日本で行なうことになっている。日本からは本所研究員千葉大学鈴木伸教授ほか菊池研究室の坂田俊文助手夫妻(ミュンヘン工科大学で勉強中)も参加し計 9 名、その帰途モスクーへまわり写真映画研究所 NIKFI を見学し、またモスクー大学の写真の講座を見学し、シベリア経由で 10 月 12 日帰国した。

◇第 5 部 井口昌平助教はパリにおいて開催されるユネスコ国際水文学十年計画調整理事会の水文学教育に関する作業部会に出席、ならびに同国において水文学研究上の諸問題について調査研究のため、11 月 27 日フランスに出発し 12 月 11 日帰国の予定。

## ☆現 地 実 験☆

曳航式波浪計海上試験のため、田宮真教授、高橋幸伯助教授は 11 月 5 日伊豆半島白浜沖で海上保安庁の協力により、巡視船「しきね」による海上試験を行なった。当日の海面は風速 15 m/s、波高 2～2.5 m で波浪計試験のためには好適であったが、船速は最高 13 km 程度であった。曳索 300m においても、テレメータはほぼ満足すべき性能を示したが、構造上一部弱点があり、前部船体のブム外皮が破損し、急いで補強工事をすすめている。

## ☆寄 稿☆

◇助教授 早野茂夫、元研究補助員 影山 宏、研究補助員 鈴木孝男「メチレンブルーとドデシル硫酸ナトリウムの相互作用に関するポーラログラフの所見」工化、68 No. 11, 2128～2132 (1965. 11)

◇教授 久保田広「Measurement of Optical Transfer Function」, Jap. J. Appl. Phys. Vol. 4, Suppl. 1, 137～145 (1965)

◇助教授 小瀬輝次、助手 高島松雄外一名「A Measuring Instrument for Optical Transfer Function」, Jap. J. Appl. Phys. Vol. 4, Suppl. 1, 154～159 (1965)

◇助手 朝倉利光、技官 鈴木恒子「Diffraction Anomaly of Various Types of Extended Source—By Polarizing Microscope with Crossed Nicols」, Jap. J. Appl. Phys. Vol. 4, Suppl. 1, 287～293 (1965)

## 第 17 巻

## 生産研究 12 月号目次

## 第 12 号

表 紙 テレメータリングによる回転速度変動の測定装置 (本文 1～7 ページ参照)

## 研究解説

回転速度変動の無接触測定装置	江 守 一 郎 横 山 茂 士 斎 藤 治 彦	1
芳香族ジアゾニウム塩の光分解	菊 池 真 一 鋤 柄 光 則	8

## 研究速報

地震動の非定常性の一取扱法について	佐 藤 壽 芳 武 藤 敏 昭	13
4-[4-オキシナフチル-(1)]-ベンゾアントロンの合成、および リンモリブデン酸アンモニウムによる多環縮合フェノールの呈色	永 井 芳 男 長 沢 孝 太 郎	16
ジエン化合物のイオンテロメル化反応	浅 原 照 三 木 瀬 秀 夫 郷 東 静	18

## 総 索 引

1965 年—昭和 40 年— (生研報告発行リストを含む) ..... 21

ニ ュ ー ス ..... 表 2・表 3